

企業ニュース 信越化学工業

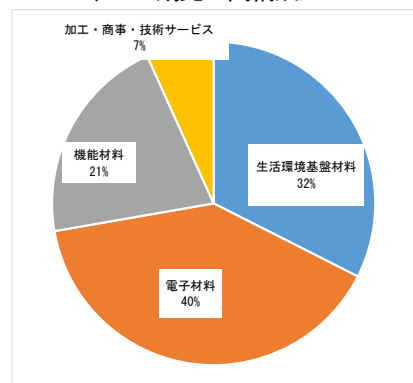
(東証1部: 4063) <https://www.shinetsu.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

素材系化学メーカー

1926年、信越窒素肥料として発足。長野県（信濃）の豊かな水力が生み出した電力と新潟県（越後）・親不知の石灰石から化学肥料・石灰窒素を生産した。1940年に現在の社名に改称した。世界シェアトップの半導体シリコンウェーハと、インフラ、住宅用途として用いられる塩化ビニル樹脂（以下、塩ビ）が主力製品。シリコンウェーハは需要が拡大するなか、巨額の投資を必要とする新たな生産能力増強の動向が注目されている。塩ビは米国シンテック社を中心に展開している。2020年には主原料の1つであるエチレンの生産も開始した。今期の生産能力増強に加え、2023年に向けさらなる増設に取り組む計画。その他、シリコン樹脂、希土類磁石、半導体フォトリソグランドなどを手掛ける素材系化学メーカー。

◇21.3期売上高構成比



(出所) 信越化学工業資料よりCAM作成

主要セグメント全てで業績伸長を見込む

22.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が4,342億円、前年同期比21%増、営業利益が1,288億円、同42%増。世界的な塩ビ需要の伸長がけん引した生活環境基盤材料の業績拡大に加え、半導体関連製品の需要が継続した電子材料、ヘルスケア製品が底堅く推移した機能材料も伸長した。塩ビは特に北米での需要が強く、本年6回値上げを通すことに成功、利益面でも大きく寄与。7回目の値上げにも取り組んでいる。電子材料では希土類磁石なども伸長した。300mmウェーハは競合他社もフル稼働状態が続くが、依然価格は能力増強投資を行う水準ではないとしており、今後も価格上昇余地がある。EUV用のブランクスが開発が進捗していることも言及された。

22.3期連結業績の会社計画は売上高が1兆7,000億円、前期比14%増、営業利益が4,850億円、同24%増。今期より報告セグメントが変更されており、かつセグメント別業績予想の開示もないため前期比較は難しいものの、塩ビ、半導体関連製品のさらなる需要拡大、シリコンの需要回復など、主要セグメントすべての伸長が見込めよう。

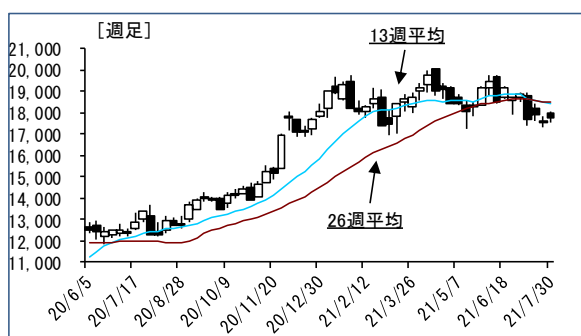
[株価動向・投資判断]

足元の業績は価格上昇している塩ビがけん引、次のカタリストは顧客との価格交渉が続く半導体シリコンにおける生産能力増強投資となる。

<4063 信越化 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,543,525 (▲3)	406,041 (1)	418,242 (1)	314,027 (2)	755.2	220.00
21.3	1,496,906 (▲3)	392,213 (▲3)	405,101 (▲3)	293,732 (▲6)	706.8	250.00
22.3 予	1,700,000 (14)	485,000 (24)	500,000 (23)	363,000 (24)	873.5	300.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/7/30)	17,750 円
年初来高値 (高値日)	20,060 円 (21/4/12)
同 安値 (安値日)	16,965 円 (21/3/5)
予想 P E R (22.3 予)	20.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	7,051.7 円
P B R	2.52 倍
予想配当利回り	1.69 %
(1株当たり配当金 300.00円)	
R O E (21.3)	10.7 %
発行済み株式数	41,666 万株